



昨年、藤井聰太さんを破り、将棋の八大タイトルの一つ「王座」を獲得し、「竜王」と二冠のタイトルを持つ伊藤匠さん。

伊藤さんの師匠で「三軒茶屋将棋倶楽部」を主宰している宮田利男さん。

プロの将棋の世界について、保坂展人区長がお話をうかがいました。

タイトルを持つプロ棋士は、  
将棋が「好きで好きで、  
たまらない」もの

区長 あけましておめでとうございます。令和8年新年、今年も皆さんにとって心穏やかな年であるようお祈り申し上げます。さて、今年の新春対談は、将棋棋士の伊藤匠さん、そして伊藤さんの師匠でいらっしゃる、宮田利男さんをお招きしています。

## 伊藤匠さん



2002年10月10日生まれ。世田谷区出身の将棋棋士。宮田利男八段門下。5歳で将棋を始め、三軒茶屋将棋倶楽部で腕を磨き、2013年9月に奨励会に入会。2020年10月プロ入り。2024年には竜王のタイトルを獲得し、2025年には竜王の防衛に成功。さらに王座のタイトルも獲得するなど、若手トップ棋士として活躍中。得意戦法は相掛かりや角換わり。各分野で活躍する30歳未満の若者を選出する「Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2025」を受賞。

伊藤さん・宮田さん あけましておめでとうございます。よろしくお願ひいたします。

区長 伊藤さん、今年は年男とうかがっています。

伊藤さん はい、2002年生まれなので24歳になります。

区長 伊藤さんは藤井聰太さんと同い年で、藤井さんの最大のライバルと目される若手トップ棋士でいらっしゃいます。今年も勢いに乗っていかれるよう期待しています。

伊藤さん ありがとうございます。

区長 タイトルを巡って争うタイトル戦は、一局が10時間を超える長丁場になることがあるとか。将棋の技術はもちろんですが、強靭な集中力と精神力も求められる世界ですね。

宮田さん 私は観戦しているだけですが、ただただ「すごい」のひと言に尽きます。藤井さんと伊藤さんの二人を見ていると、才能というよりは、まずは将棋が「好きで好きで、たまらない」のだろうなと思いますね。

区長 伊藤さんと藤井さんは子どもの頃からライバルで、様々な大会で勝負したことがあるとうかがっています。2012年の「小学館学年誌杯争奪全国小学生将棋大会3年生の部」では、藤井さんは準決勝で伊藤さんに負けて大号泣。伊藤さんは「藤井さんを泣かせた男」として紹介されることもあります。

伊藤さん この時は決勝に進んだのですが、一緒に教室に通っていた川島滉生くんに負けてしまって、悔しい思いをしました。

区長 そうした経験を経て棋士となり、八大タ

イトルの一つ「竜王」、そして昨年10月には第73期王座戦で、見事「王座」の位を勝ち取りました。タイトル戦というのは棋士にとってどういうものなのでしょうか。

伊藤さん そうですね、本当に小さい頃から、棋士になってタイトル戦に出たいという強い夢を持ってやってきました。子どもの頃はタイトルを持っている棋士というのは、ものすごく偉大な存在だと感じていたので、実際に自分がそのタイトルを取るということがなかなか想像がつかなかったところもあって、なんというか不思議な感覚もあります。

区長 タイトルは1年ごとに防衛戦やタイトル挑戦者決定戦が組まれ、追いつ、追われつの厳しい世界だと聞いています。そうした中で、心安らぐ時とか、将棋のことを忘れて空っぽになる時間はあるのでしょうか。

伊藤さん あまりないかもしれません。先ほど師匠もおっしゃっていたように、将棋が好きという気持ちが小さい頃から強く、将棋のことばかり考えてきた人生です。ふとした時も将棋のことが頭に浮かんでしまう、体に将棋のことが染みついている感じですね。

将棋の魅力は自分だけで  
考え方を  
創り出していくこと

区長 世田谷区制80周年記念に「羽生善治三冠と指そう」という催しを行いました。今から14年前です。この時の写真を見ていました